

第1回伊賀市高齢者施策運営委員会 議事録

開催日時 令和元年10月10日(木) 16:00~17:25

開催場所 伊賀市役所406会議室

出席委員 田中 哲生 (【1号委員】伊賀薬剤師会)
富山ひとみ (【1号委員】伊賀市健康づくり推進協議会)
三ツ森義久 (【1号委員】伊賀市民生委員児童委員連合会)
村田 省三 (【1号委員】伊賀歯科医師会)
辻中 孝子 (【1号委員】公益社団法人認知症の人と家族の会三重県支部)
山路由実子 (【2号委員】鈴鹿医療科学大学)
岩本 昌平 (【3号委員】介護老人保健施設)
峠 友昭 (【3号委員】三重県介護支援専門員協会伊賀支部)
平井 俊圭 (【3号委員】伊賀市社会福祉協議会)
竹尾 光次 (【3号委員】地域密着型サービス事業所)
大窪 毅 (【3号委員】伊賀地区老人福祉施設協会)
中島 慎介 (【3号委員】居宅介護サービス事業所)
松本 新一 (【4号委員】伊賀市老人クラブ連合会)
坂本 和代 (【5号委員】)

欠席委員 猪木 達 (【1号委員】伊賀医師会)

議事日程 1 あいさつ
2 委員紹介
3 会長、副会長選出
4 議事
(1) 第5次高齢者福祉計画・第7期介護保険事業計画における進捗状況
(2) 平成30年度伊賀市地域包括支援センター事業実施報告
(3) 第6次高齢者福祉計画・第8期介護保険事業計画について
(4) その他

議事概要 開会

(事務局)

失礼いたします。定刻になりましたので、ただいまから、令和元年度第1回伊賀市高齢者施策運営委員会を開催いたします。

本日は、委員の皆様におかれましては、ご多用の中、また、夕刻という会議にもかかわらず、ご出席いただきありがとうございます。

それでは、まずはじめに、田中健康福祉部長よりご挨拶をさせていただきます。

(健康福祉部長)

失礼いたします。平素は皆様方、それぞれのお立場で伊賀市の福祉行政、高齢者施策の推進にご尽力いただきありがとうございます。先ほど、司会も申しましたように、今年度第1回目の高齢者施策運営委員会でございます。事項書にもございますが、ただいま第5次高齢者福祉計画・第7期介護保険事業計画を伊賀市のほうで進めさせていただいておりますが皆様方のご協力をいただきながら進めているところでして、その進捗状況につきましてご報告させていただきますとともに、地域包括支援センターの状況と、あともう3年ですので、次の計画を作っていかなければならないということで、次期計画に向けたご協議をいただきたいと思っております。限られた時間ではございますが、どうぞよろしくお願いいたします。

(事務局)

第1回目ということで委員の任期満了に伴い、本年度4月に、皆様に委員を委嘱させていただいております。初めての顔合わせでもありますので、順番に自己紹介ということでお願いしたいと思います

— 委員及び事務局 自己紹介 —

(事務局)

本日の委員会でございますが、委員総数15人中、出席者13名のご出席をいただいております。半数以上の出席がありますことから、伊賀市高齢者施策運営委員会条例第6条第2号の規定(半数以上の出席)により、会議が成立していることをご報告申し上げます。また、欠席ということで猪木委員様から連絡をいただいております。それと村田委員様からは少し遅れると連絡をいただいております。

それでは、議事に入る前に、議事進行等に関して3点お願いさせていただきます。

1点目は、本委員会の会議は、伊賀市情報公開条例第35条及び住民自治基本条例第6条により公開の会議といたしております。

また、審議会等会議の公開に関する要綱第8条に基づく会議録作成のため、音声録音を行わせていただくとともに、同要綱第9条第2項及び第3項により作成した会議録を市ホー

ムページに掲載させていただきます。

2点目ですが、本会議は公開の会議であることから、傍聴者と報道関係者の入室を認めさせていただきます。

3点目に、円滑な会議運営のため、発言の際は、挙手し委員長の発言許可の後をお願いします。また事務局員がマイクを届けさせていただこうと思っておりますのでよろしく願いいたします。

なお、この後、伊賀市地域密着型サービス運営委員会の開催も予定しておりますので、よろしく願いいたします。

続きまして、資料の確認をさせていただきます。事項書につきましては、訂正がございましたので、改めて机の上に置かせていただいております。机の上に、本日の事項書、事前に送付させていただいた、委員名簿、委員会条例、資料1・2・3・4、及び、伊賀市高齢者かがやきプランがおりかご確認をお願いします。

続きまして、伊賀市高齢者施策運営委員会条例の第5条に、「委員会に委員長及び副委員長を置く。」となっております。同条第2項には、「委員長は、委員会の互選によりこれを定め、副委員長は委員長が指名する。」となっております。委員長副委員長を決めさせていただく必要がございますが、委員の皆様、如何いたしましょうか。

(委員)

事務局の方で、案がありましたらお願いします。

(事務局)

今事務局案をとご提案をいただきました。それでよろしいでしょうか。

(委員)

異議なし

(事務局)

それでは、委員長に条例第3条の第2項の(2)識見を有する者として委嘱させていただいています、鈴鹿医療科学大学の山路由実子先生を推薦いたします。前回委嘱時から、当委員会の委員長をお願いしておりました。今年度もお願いしたいと思います。いかがでしょうか。委員の皆様、山路先生をお願いしてよろしいでしょうか。

(委員)

異議なし 一拍手一

(事務局)

それでは、委員長席の方へ、お席をご移動いただきたいと思います。それでは、副委につきましては、委員長の山路先生からお願いしたいと思います。

(委員長)

それでは、本委員会の副委員長を、地域の福祉に詳しいということで、平井俊圭委員をお願いしたいと思います。

(委員) 一拍手一

(事務局)

お席のほうへご移動をお願いします。それでは、委員長様と副委員長様から一言ずつ挨拶をいただけたらと思いますのでよろしく願いいたします。

(委員長)

委員長の大役を拝しました、山路由実子と申します。一生懸命務めさせていただきますので、よろしく願いいたします。庁舎が新しくなって、こちらに来させてもらうのが初めてなものでドキドキしておりますが、庁舎のように気持ちも新たに取り組んでいきたいと思えます。よろしく願いいたします。

(委員) 一拍手一

(副委員長)

皆さんには、いろんな意味でお世話になっており、ありがとうございます。委員長の補佐として、議事がスムーズに進むように尽力を尽くしたいと思いますので、皆さんのご協力をよろしく願いいたします。

(委員) 一拍手一

(事務局)

ありがとうございました。以降の議事進行を山路委員長にお願いいたします。それでは、委員長、よろしくをお願いします。

(委員長)

それでは、議事に入ります。事項書に基づき、進めさせていただきます。本日は、このあと地域密着型サービス運営委員会も開催されますので、委員の皆様のご協力をお願いします。

4 議事

(1) 第5次高齢者福祉計画・第7期介護保険事業計画における進捗状況について

(事務局)

— 資料1に基づき、C及びD評価の進捗状況について説明 —

(委員長)

ありがとうございました。ただいまの説明について、ご意見、ご質問はございませんか。

(委員)

これは、自己評価ですやんな。第三者からの評価ではありませんよね。自分等でだいたい目標に対してどうやったかを単純に言うてるだけですやんね。どこの部門もそうですか。昨

日も人権やったんですけど、その課だけで他からの何がないんで。本当にこの数字かと思ったりもするんで。

(事務局)

数字をおさえるかたちになりますので、各担当課で、例えば参加人数であるとか開催回数を指標にしながら自己評価というかたちでつけさせていただいています。

(委員)

目標の立て方も問題があるかもしれませんな。打ち出した数字がなかなか達成できなかり、いやいや、少ないめに目標にしといて、達成できたらいいやんという場合もでてくるわな。

(事務局)

おっしゃるとおりです。

(委員)

こういう会議は初めてで、全くわからんというのが正直な感想なんですけど、資料1をご覧くださいと思います。例えば、①の平成30年度の目標値に対して実績値が7,418となっていて、平成31年度の目標値が6,350、もうすでに評価AAで117%となっているから、平成31年度の成長が見込めないというふうになりますわな。平成31年度の目標値は、平成30年度の実績値に17%を掛けて、その数値を31年度の目標値にしていくのが好ましいですわな。それから、④の日常生活自立支援事業については、1,925の目標値に対して達成率が95%となっていて、これは100%にしていけないとあかんというのでこの数字だというのはよくわかります。数字的なことをいいますと、決算に対して予算をどう組むかと。予算が多ければ、決算の数値も変わってこないとあかんと思いますが、まあ、この数値目標は変えることができないと思いますので、個人の意見ということで、このような話もあったということで、頭の中に入れておいてもらえたらと思います。

(事務局)

はい、ありがとうございます。

(委員長)

事務局から、何かありますか。

(事務局)

今、ご指摘いただいた目標値なんですけど、実はもう既に3年間の目標数値を前回の計画策定の際に設定してあります、評価も、例えば先ほどの⑫社会福祉法人の目標値4に対し実績

が2ということでC評価となっているわけですが、指標を「人」にすれば毎年11人ぐらいの実績は出ていて、B評価ぐらいになると思うのです。指標次第というところはあるんですが、この計画の期間までは、この指標で評価をしていこうと思います。

(委員)

もう、一つ。3年間の目標ですか。例えば、3年契約として、プロ野球選手なら活躍して翌年年俸があがりますわな。変動相場制にすればいいのではないかと、営利企業で働いていた者は思いますわ。

(委員)

中間で、ローリングするとか。

(委員)

見直しをすべきですな。

(事務局)

すみません。今の目標の件について、少しよろしいでしょうか。申し訳ないです。おっしゃっていただくとおりの部分もございます。しかし、事業によっては、たまたま去年が多かったという事業もございます。着実に、皆さんの協力のもと実績が上がっているものもございます。着実なものであれば、ここに記している目標値を見直しさせていただくことも、皆様方のご了解を得た上で、あってもいいんじゃないかと思います。また、こういった場で目標値についてもご審議いただけたらと思っております。

(委員)

前後するんですが、目標値の設定は、会議回数であったり、相談件数であったりとある程度の設定は可能だと思うのですが、③市長申立による後見人等就任件数というのは、枠どりの設定なのか、いったいどのような根拠で目標値を設定してあるのかなと。伊賀市全体の中で、市長申立の必要な方はたくさんおられると思います。

(委員)

目標値は3年前に決まっているんですわな。

(事務局)

確かに、伊賀市全体の中では、市長申立の必要な方は大勢いらっしゃると思います。表にでていないだけで、通年市長申立件数が4件ぐらいだからということで、その件数を目標値

とするのはどうかと思います。他に、このシートを見ていただいて、指標としていかがなものかと思われる箇所が何箇所かあるかと思います。次年度の計画策定に際しては、それぞれ取組みを行っている担当課と協議し、指標について庁内委員会に諮った上で、この審議会においてご審議していただきたいと考えています。

(委員)

シートの6ページの下になりますが、達成率というところで、AAの評価が多くなっています。今までの話から、目標設定の数字を見て、数値を変更していった方がいいのではないかと思います。本当に努力しなければならないところはあると思いますし、AA評価が14というのは、非常に努力をされた結果だと思いますが、そもそもの設定がどうなのかと疑問にも思います。今の結果を参考にしてもらって、やや厳しく設定をして、それに近づけていくことが本当の意味での目標達成だと思います。

(委員)

時間も経過しているので、今後は、今までの意見を検討していくということで、次の議題に進んではいかがでしょうか。

(委員)

質問もほどほどにしゃんとあかん。

(委員長)

これまで、いただいたご意見をもとに、次期計画策定に向けて、皆で議論をし、進めていきましょう。

(2) 平成30年度伊賀市地域包括支援センター事業実施報告

(事務局)

— 資料2・3に基づき、地域包括支援センターより説明 —

(委員長)

ただいまの説明に対して、ご意見やご質問はございませんか。

(委員)

6ページの介護予防出前講座の「要請」の漢字が間違っているのでは。

(事務局)

失礼しました。「養成」です。訂正いたします。

(委員)

4 ページの施設での虐待のところですが、原因を追究し、その後のフォローが大事だと思います。各施設に事案の情報提供を行い原因と対策を周知し、施設に従事する職員まで周知徹底を図ることで再発を防ぐこと。これが企業であるなら、研修会を行い、周知徹底し、その後の確認も行っているところです。

(事務局)

平成 30 年度の施設虐待通報は 2 件とありますが、通報だけで虐待は行われていませんでした。主に、施設での虐待といえば、人手不足で業務が超過ということが原因としてあげられますが、虐待が行われた多くの場合は、第三者委員会において何度も会議を積み重ね、その中でモニタリングを行い、1 年間は徹底的に指導を行っています。もちろん、第三者委員会から会議録は上がってきますし、かなり厳しい意見もあり、その結果を末端まで周知徹底し、再発防止を図っています。

(委員長)

他にご意見はございませんか。ないようでしたら、次に進めたいと思います。

(3) 第 6 次高齢者福祉計画・第 8 期介護保険事業計画について

(事務局)

— 資料 4 に基づき説明 —

(委員長)

ただいまの説明に対して、ご意見やご質問はございませんか。ないようでしたら、次に進めたいと思います。

(4) その他

(委員長)

何かございますか。

(副委員長)

3 点ほど、紹介とお願いをさせていただきます。

まず 1 点目、平成 30 年度保険者機能の評価結果ですが、これは「見える化システム」か

らなんです、保険者機能の構築部門で、三重県内 29 市町村中 8 位という結果でした。全国的には、2741 市町村中 312 位ということです。また、安定化施策においては、三重県内 29 市町村中 6 位というすばらしい結果であったことを報告させていただきます。

2 点目ですが、計画の格子にもありますが、介護従事者の人材不足がございます。このことについて、深刻な問題となっていますので、ここにいる皆様の意見をお聞かせいただき、次期計画に反映させていきたいと思っております。

3 点目ですが、ヤングケアということばがあります。これは、若者が介護に従事するというもので、実際に桜丘高校が実践し、NHKの事例ビデオ部門第 1 位に輝いています。

(委員)

よろしいですか。老人クラブ連合会でも、研修でこのビデオを拝見しました。私は、介護保険の被保険者代表としてこの席にいるわけですが、県の研修会での内容について少し披露したいと思います。3 年間で、三重県内に介護保険料を上げていないところが 3 市町あります。四日市市と朝日町、玉城町です。いろいろな意見を出し合ってこそ、実のある会議となります。伊賀市のこのような施策もいいですが、保険料を使わない施策も必要だと老婆心ながら思うので一言言わせていただきました。

(委員長)

活発なご意見をありがとうございました。これで、令和元年度第 1 回伊賀市高齢者施策運営委員会を終了します。ありがとうございました。

(事務局)

特に連絡事項等ございませんので、これで終了いたします。ありがとうございました。